



# 二十六聖人

令和3年8月号

(令和3年7月25日発行)

教会だより

2021. 8 No. 339

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296  
<http://www.futamatagawa-cc.com/>  
主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

## 罪の赦しによる救いと平和

4月9日、目に見えないほどの小さな松葉ボタンの種をプランターに蒔きました。蒔いたのち、水をやる時も、もしかしたら流されるかもという心配があったので、本当に慎重に水を注ぎました。でも、成長の速度が思ったより遅かったので、全部だめだったかなと思いながら、毎日、心配な眼ざしで眺めていました。そして、ついに、4月24日、芽生え始めて、どんどん、大きくなり、5月23日には庭に移植しました。それから1ヶ月後、やっと一つのつぼみが花びらを開き、初めの松葉ボタンが咲き始め、今は、ソテツの下の小さな花畑が、連日、新しい花でいっぱいとなっています。開花までは長い時間でしたが、母の好きだった花を毎日見ることができ、とても楽しくてうれしいです。

母のことばかりの1ヶ月でした。日本での宣教を決めてから、特に、一昨年11月、最後に韓国に行ってきたからは、ある程度、こうなるかもという思いがありました。しかし、実際にそうなり、しかも、新型コロナウイルスのせいで、母の葬儀にも参加できなくなった時の気持ちは、言葉では表現できないほどのことでした。悲しいというか、悔しいというか、色々複雑な心となって、現実感さえなくなったようでした。でも、梅村昌弘司教様を始め、司祭団の皆様、特に、二俣川教会と他の教会の信者の皆様の温かい心配りとお祈りのおかげで、とても大きな慰めと恵み、また、力を得ることができました。母も皆様のお祈りのおかげで、きっと、今は神様の国で永遠の平安と安らぎをいただいていると思います。改めて、心より感謝いたします。これからも、皆さんと共に、この信仰の道を歩き続けたいと思います。よろしくお願いたします。

さて、もう真夏の暑さが猛威を振るう8月になりました。この8月には、特に、終戦記念日であり、聖母マリアの被昇天を記念する祭日もあります。神様は御子イエス・キリストの母であるマリアを、死の苦しみや肉身の腐敗から守るため、生きているマリアを天に上げられました。考えてみたら、マリアの人生は悲しみと喜びが交錯した日々の連続だったと思います。救い主の母となる栄光を前もって知っていましたが、その栄光をいただくまでには、どれほど辛くて悲しい代価を払わねばならなかったでしょう。世の中の栄光とは全然異なる栄光だからと言って、その苦しみがすぐ喜びに変わるわけではありませんでした。実際、イエス様が成し遂げられた救いの御業は、世の中の力を用いた救いではありませんでした。イエス様の救いは、「ご自身が罪びととなることによる救い」で、すべての罪びとを赦すために、自らその罪とそれに伴う十字架上の死という罰まで受け止めることによる救いだったのです。それが御父の救いの計画で、イエス様はそれに従われたわけですが、そのために、マリアは「罪びとの母」とならなければならなかったでしょう。しかし、イエス様は復活され、神様の愛による救いの計画を完成されました。そしてそれと同時に、「罪びとの母」だったマリアは、「真の救い主の

母」となったのです。でも、その「罪びとの母」という呼称は残っていて、実際、マリアは「すべての罪びとの母として」、今も私たちのために祈ってくださいます。それがマリアの使命で、イエス様が罪びとのために働かれた以上、その母親であるマリアも同じく働いてくださるわけです。

主の祈りには次のような箇所があります。「わたしたちの罪をお赦してください。わたしたちも人を赦します。」という箇所です。元々は「わたしたちも人を赦します。ですから、わたしたちの罪をお赦してください。」という意味の文章でしたが、とにかく不思議です。なぜ、「わたしたちをお赦し下さい。」ではなく、「わたしたちの罪をお赦してください。」なのでしょう。また、なぜ、「わたしたちも人の罪を赦します。」ではなく、「わたしたちも人を赦します。」なのでしょう。私たちが自分の罪の赦しを得るためには、他人の罪だけではなく、その人自体を赦さなければなりません。イエス様はただ、私たちの罪を赦すためではなく、私たち自体を赦すために、自ら罪びととなってくださいました。また、それこそが世の中から得られる偽りの平和でなく、イエス様からいただく真の平和であることをも示されました。ですから、私たちも人の罪や咎だけではなく、その人を完全に赦さなければならないのです。

新型コロナウイルスのせいで、世界の多くの人々が苦しんでいます。仮に、この病気が終息されたとしても、昔の過ちを繰り返したりしたら、私たちの苦しみは続くはず。戦争や紛争が続けられ、色々な形の争いや戦いが止まらない世の中で、皆が自分の過ちを自ら赦しながらも、相手を赦すことにはちょっとだけの余地も置こうとはしません。まるで、「愛のあるべきところに憎しみを、赦しのあるべきところに諍いを、一致のあるべきところに分裂を、信仰のあるべきところに迷いを、真理のあるべきところに誤りを、希望のあるべきところに絶望を、喜びのあるべきところに悲しみを、光のあるべきところに闇を」もたらしているようです。

こんな世の中に、神様は私たちを赦しと平和の種として蒔かれました。私たちは松葉ボタンやからし種ほど、小さなものに違いありません。しかし、それぞれの現場で許しによる救いと平和の花を咲かせるに十分な愛を、イエス様から学びました。その愛を生かして、毎日、愛と平和の新しい花を神様の庭であるこの世の中に咲かせるために務めていきましょう。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求



## 7月教会委員会報告

### 【司祭】

今日の福音で、イエス様の故郷の人達はイエス様を、ただの大工、マリア様の息子だという人間的情報に従い、イエス様を預言者として信じられないと思いました。その信じられない人々の様子を見てイエス様は驚いています。私たちは、もしかしたら神様を驚かせているかも知れません。私たちが信仰生活を行うのは、目的とは少し違いますが神様を喜ばせる為です。

望ましいのは、初めて親にあやされる事に気づき、これから両親の気に入る子供になりたいと初めて思った時に、子供は良い行いをします。同じように私たちの日々の想い、言葉、行いが神様を驚かせる事ではなく、神様を喜ばせる様にしなければならないと思います。それぞれの教会活動は神様を喜ばせる為に何が必要か、そして今、教会から離れている方たちをどのようにサポートすれば良いかを考えていただければと思います。

また、私の母のために、温かい心をわかちあっていただき有難うございました。

## 【7月の検討項目】

信徒からの意見対応進捗報告

◇教会委員会サポートチームに関して

・2018年に教会委員会をサポートする為「教会委員会サポートチーム」を発足致しました。神父様と信徒のコミュニケーションを円滑にする事を主な役割に、献金等に関わる財務委員会へのサポート、教会委員会や事務所へのサポートを行って頂いています。今回、神父様の日本語も上達し信徒と円滑にコミュニケーションが図れていますので「教会委員会サポートチーム」でのこの部分のサポートは廃止し、改めて役割の名称も含め、継続や見直しを検討致します。

◇事務所長の任期に関して

・2018年に教会運営円滑化の為に事務所長任期をなくしました。事務所長の任期に関して、再度教会委員会で検討した結果、現状の事務所長の役割は多岐に渡っている為、任期を理由とする交代は適切でないと判断しました。まずは、後継者の育成と役割内容見直し等を検討する事が必要という結論に至りました。

2. 教会HP刷新に関して

・教会HP刷新の為に、プロジェクトチームを発足致します。7月10日(土)に方向性検討の為に第1回ミーティングを行います。HPに興味のある方、技術的に詳しい方を募集しています。

3. 教会保管写真データ及び写真の管理に関して

・現在の写真データの量及び保存場所・バックアップの必要性の有無判断、及びデータ化されていない写真枚数と保管及びデータ化の必要性の検討から始めます。興味のある方、ご応募ください。

その他

敬老の日(9/20:月)のお祝いは、喜寿・米寿を迎えられる方に記念品を贈る事が承認されました。パーティーは行いません。

## 【その他検討確認事項】

1. 『事務所』

・今後、CO2センサーを使用し教会内のCO2濃度を測定監視致します。現状のミサでの測定結果は500ppm前後ですので、ほぼ外気と同等数値で良好な状態です。

2. 『各委員会報告』

(教会学校)

・8月29日(日)「教会学校と青年と共に捧げるミサ」と「夏のお楽しみ会」(17時まで)を行います。「教会学校★夏企画2021」(仮称)企画案は承認されました。(上記の「夏のお楽しみ会」と同義です。)

(キリスト教講座)

・キリスト教入門講座が始まり、現在5名が受講されています。  
・堅信を希望されている方は、現在12名です。

(福祉委員会)

・寄付先各団体に対して本年度上半期の活動報告をお願いし、『二十六聖人』10月号で紹介する予定です。

(マリア会)

・「ステラマリス帽子を編む会」では、集っての作業が出来ない為に個別で船員の為の帽子を編んでおり、既に50個以上完成しています。しかし、毛糸が不足していますので、毛糸の寄付をお願いできればと思います。

(青年会)

・6月度のオンライン定例会は、「イエス様のみ心」をテーマに開催しました。

以上

## 初聖体のお恵み

6月27日(日)教会学校と青年と共に捧げるミサの中で、2人の子どもたちが初聖体のお恵みを授かりました。O. H. T. さんとマリア H. R. さん、2人とも小学校2年生です。

例年なら半年かけて勉強会を行うところ、今回は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置のもと、十分な時間はかけられませんでした。2か月間毎週、保護者の方と一緒に集中して学びました。そしておうちで毎日お祈りをして、そのお祈りを初聖体のミサの中で奉納しました。2人とも、ろうそくを手に入堂する後ろ姿からは緊張が伝わってきましたが、ご聖体をいただいた後はイエス様の愛に満たされた良い表情をしていました。

初聖体の感想を聞かれた2人からは「うれしいきもちです」「今もちょっとドキドキしています」と素直な感想が聞かれました。

二俣川教会の皆さんと一緒に初聖体のお祝いをできなかったことは残念でしたが、2人が初聖体のお恵みに与えるよう、様々な支えをいただき、ありがとうございました。これからも、2人の信仰が支えられ、共にキリストの道を歩むことができるよう、お祈りください。

教会学校リーダー M. Y.

\*\*\*\*\*

## 姜神父様司祭叙階記念日のお祝い報告

『姜神父様、司祭叙階27周年おめでとうございます』

7月13日は姜神父様の27回目の司祭叙階記念日でした。司祭にとって、叙階記念日はご自身の誕生日より大切な日と聞いたことがあります。13日は火曜日でしたので、1番近い主日である11日の11時のごミサの中で、教会としてお祝いをさせていただきました。当日、侍者デビューだったトマス・アキナス F. I. 君が花束を贈呈。神父様は、とびきりの笑顔で記念撮影してくださいました。



また、今年も残念ながら皆で一同に会してお祝いすることは出来ませんでした。姜神父様の為に「同じ時間」に「それぞれの場所」でお祈りする！という、『祈りの輪企画※1』が今年も呼びかけられ、叙階記念日当日の13日夜9時に行われました。霊的なプレゼントですので目には見えませんが、今年もたくさんの方から賛同の声をいただきました。また、週日にもささやかな祈りの時を持つことができたことへの喜びの声も聞こえてきました。当日、今年もお祈りいたします！と神父様にお伝えすると、ニッコリお喜びでした。

※1 同じ時間にそれぞれがいるところ(自宅や職場…どこでもOK)で、『主の祈り、アヴェ・マリアの祈り、栄唱』を、1回ずつ心を込めて捧げる企画です。

- 十 神様が姜神父様を通して与えてくださるお恵みに感謝致します。姜神父様がこれからも主のみ旨のままに、そして健康に、司祭としての道を歩まれますように。また、お母様の安息とご家族の慰めの為にもお祈りいたします。

## 姜神父様のお母様、セシリア権 相蘭様のご冥福をお祈りいたします

6月29日(火)朝、姜神父様のお母様、セシリア権 相蘭(コン サンラン)様が帰天されました。享年85歳でした。姜神父様はこのコロナ禍にあって、帰国するために様々な方法を探りましたがそれは叶いませんでした。7月1日、韓国での葬儀の日にあわせて、二俣川教会でも追悼ミサを捧げました。韓国人の司祭6名と助祭1名、ナン神学生も駆けつけてくださり、平日の悪天候の中、二俣川教会信徒も70名以上が集まりました。ロビーには、2018年にご家族が来日された時の写真が貼られ、お母様のお人柄やご家族の温かさを私たちも感じることができました。また、韓国での葬儀と二俣川教会での追悼ミサにそれぞれ、二俣川教会信徒一同からとしてお花を贈らせていただきました。ここであらためて、姜神父様を日本へ送り出してくださいましたお母様に感謝し、ご冥福を心からお祈り致します。

教会委員会

\*\*\*\*\*

東日本大震災から10年が過ぎましたが、先日は熱海で大きな自然災害が起こり、多くの死者と被災者が出ました。世界に目を向けても、ドイツでは大きな水害が起こり、日本同様人々が苦しい思いをしています。新型コロナウイルスによる被害も含め、災害を受けて苦しむすべての人々の為心からの祈りを捧げましょう。



### 災害被災者のための祈り

父である神よ、

すべての人に限りないいつくしみを注いでくださるあなたに、  
希望と信頼をこめて祈ります。

災害によって、苦しい生活を送り、  
不安な日々を過ごす人々の心を照らし、  
希望を失うことがないよう支えてください。

また、亡くなられた人々には、永遠の安らぎをお与えください。

すべての人の苦しみを担われたキリストが

いつもともにいてくださることを、

祈りと行動によってあかしできますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

(2021年2月16日 日本カトリック司教協議会認可)





## 写真の保管・保存について

広報では、教会の祝日のミサや行事、神父様のお祝い、及び冠婚葬祭時などに、出来るだけ漏れなく写真撮影を行っています。また撮った写真を選択し、ドロップボックス（Dropbox）というインターネット上の外部ファイルに保存しています。

広報のメンバーではない場合もありますが、撮影者はまず教会の親子室にあるパソコンに、撮った写真を一時保管します。その後、広報がそのデータをUSBメモリーなどに入れて持ち帰り、教会HPに保存することになります。ドロップボックスに入れる際には、日づけや行事名を明記しますので、そこにあるデータは、教会HPのメニュー「共同体向け」を開けて、設定されたパスワードを入れれば、誰でも簡単に見ることができますし、ダウンロードも可能です。

以前は撮った写真を焼いて個々にお渡しするようなことも行っていましたが、今は教会HPの存在が皆さまに知られるようになり、パソコンやスマホの操作もかなりの方たちができますので、信徒の皆さまが個々に欲しい写真を自分で手に入れることができるようになりました。

しかし、ドロップボックスとは何ですか？という疑問を持たれている方もたくさんいらっしゃると思いますので、下記に簡単にご説明します。

### ドロップボックス（Dropbox）とは：

インターネット上でファイル管理や共有を行う「オンラインストレージサービス」です。最近よく耳にする「クラウド」のひとつでもあります。

インターネット上に全てのデータを保存するので、パソコンやUSBが盗難に遭ったり紛失したりしてしまっても、データを失うことはありません。現在、当教会ではデータ容量2テラバイト（2,000GB）の、有料のDropboxを使用しています。

現在、教会委員会から広報委員会へ、「写真データの管理について」という質問をいただいております。過去の写真の保管方法や管理責任はどこにあるのかも含めて、定例会を開いて検討を続けていく予定です。

広報委員会



【編集後記】梅雨も明けて、真夏の暑さがやって来ました。マスクをしているせいなのか、本当に暑くて大変です。マスク生活での夏は2度目ですが、それに慣れてしまうのもどうなのだろうかと思う反面、コロナのお陰で私たちが学んだことも、きっとたくさんあったでしょう。去年はできなかったことを、今年は必ず実現させるぞという目標を持って取り組んでくださっている方も多くおられます。教会としては、10月に大切な堅信式が行われます。集まることができなかった為に休止していた「聖書100週間」も9月から再スタートします。とても嬉しいですね。さて、8月末に発行予定の「二十六聖人」9月号ですが、8月の教会委員会が休会の為、申し訳ありませんが、休刊にさせていただきます。どうぞ教会で、またオンラインでも、皆さまと元気に再会できますようにとお祈りしております。 (N.F. 記)